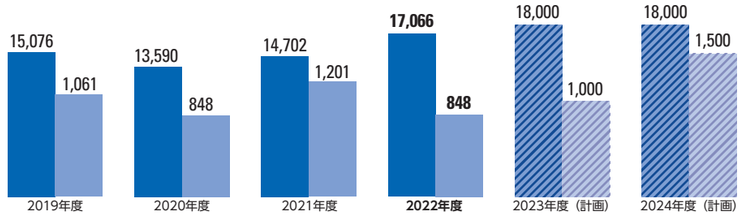
事業概要

王子ホールディングス株式会社

売上高 **17,066億円**　営業利益 **848億円**

売上高および営業利益の推移



産業資材カンパニー

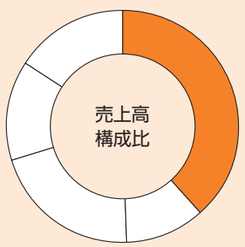
➡ P45

主要な事業
段ボール原紙・加工、白板紙・紙器、包装用紙・製袋

連結子会社

国内	海外
43社	44社

収益構造



38.6%

売上高 7,805億円

営業利益 △12億円

生活消費財カンパニー

➡ P49

主要な事業
家庭紙、紙おむつ

連結子会社

国内	海外
1社	6社

機能材カンパニー

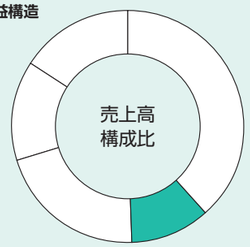
➡ P51

主要な事業
特殊紙、感熱紙、粘着、フィルム

連結子会社

国内	海外
9社	22社

収益構造



10.9%

売上高 2,199億円

営業利益 155億円

資源環境ビジネスカンパニー

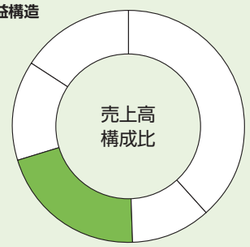
➡ P55

主要な事業
パルプ、エネルギー、植林・木材加工

連結子会社

国内	海外
17社	29社

収益構造



20.9%

売上高 4,238億円

営業利益 685億円

印刷情報メディアカンパニー

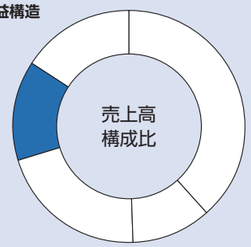
➡ P59

主要な事業
新聞用紙、印刷・出版・情報用紙

連結子会社

国内	海外
7社	1社

収益構造



13.9%

売上高 2,810億円

営業利益 △48億円

コーポレートマネジメントグループ／シェアードサービス会社

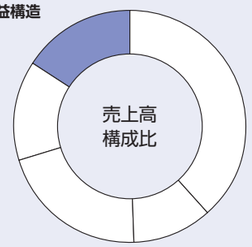
➡ P61

主要な事業
不動産、エンジニアリング、商事、物流 他

連結子会社

国内	海外
15社	2社

収益構造



15.7%

売上高 3,181億円

営業利益 84億円

＊ 王子ホールディングスの売上高および営業利益には調整額（主として内部取引に関わるもの）を含む。
個別の売上高および売上高構成比、営業利益には調整額（主として内部取引に関わるもの）を含まない。

生活産業資材事業｜産業資材事業

サステナブルな紙製包装資材を活用した
イノベーティブな提案で、
環境保護と収益向上を両立し、
ステークホルダーからの信頼にお応えします。

王子ホールディングス
常務グループ経営委員
産業資材カンパニープレジデント
長谷部　明夫

事業概要

段ボール、紙器、紙袋といった各産業に不可欠な包装資材について、原紙製造から製品加工、さらにパッケージデザインまでの素材・加工一貫の生産・販売体制を整えており、お客様のニーズにタイムリーに対応しています。

● 段ボール事業

食品・日用品・家電製品等あらゆる分野で使用される一般段ボールに加え、工業部品等の輸送に用いられる重量物包装用段ボールも取り揃えています。また商品サイズに合わせて梱包する自動包装システムも提供しています。

● 紙器事業

菓子・化粧品・医薬品等あらゆる分野で使用される紙器について、美粧性に優れた原紙に、用途に応じた構造設計や訴求力のあるグラフィックを組み合わせることで、お客様の商品の価値をさらに高めるパッケージの提案を推進しています。

● 紙袋事業

さまざまな製品を安全に保管・輸送するための重包装袋から、小売店の商品包装に用いられ、販売促進にも役立つ手提げ袋、さらにネットショッピングの普及で需要が伸びている宅配袋まで、お客様のニーズに幅広く対応しています。

事業環境認識
- 環境問題への消費者意識の高まり
- 脱プラスチックの潮流による再生可能素材への関心の高まり
- 東南アジアやインドなど新興国市場の経済発展
- EC市場の拡大
- 原燃料価格の高騰や為替レートの大きな変動

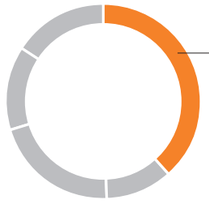
事業機会とリスク
- 紙製包装資材への切替提案による拡販
- 国内外の王子グループ各社と連携した販売機会の創出
- 需要増に応じた設備投資やM&Aによるシェアアップ
- 原燃料価格高騰と製品価格への転嫁
- 中国、東南アジアにおける原紙市況の悪化

強み
- 原紙加工一貫生産による安定した供給・品質管理体制
- 国内2カ所の段ボール一貫工場はじめ効率的な原紙輸送による環境負荷低減
- 東南アジアにおける多数の段ボール加工拠点とそれらを基盤とする強固な段原紙販売体制

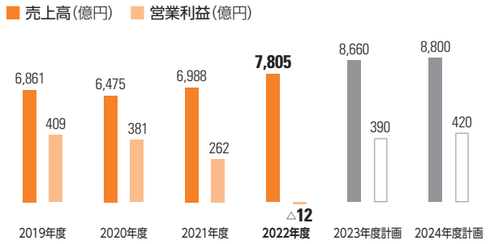
売上高構成比、売上高および営業利益の推移※

2030年度　売上高目標　12,500億円

※産業資材事業および生活消費財事業合計



売上高構成比　38.6%
売上高　7,805億円
営業利益　△12億円



セグメント概況

2022年度は、売上高7,805億円(対前年＋817億円)、営業利益△12億円(対前年△274億円)でした。国内事業では、多くの品種において価格修正に取り組んでおり、売上高は増収となりました。紙おむつの売上高は前年並みでした。海外事業では、段ボール原紙・段ボールは主に東南アジア・インドでの販売増、値上げの浸透に加え、マレーシアにおいて2021年10月から段ボール原紙の新マシンが稼働したことにより、売上高は増収となりました。

2023年度は、売上高8,660億円(対前年＋855億円)、営業利益390億円(対前年＋402億円)を計画しています。

中期経営計画達成のための課題と2023年注力施策

事業戦略
- 東南アジア・インド・オセアニアでのパッケージング事業のさらなる拡大・強化
- 首都圏を中心とした国内段ボール事業の拡大・強化

課題
- 海外/新工場建設・M&Aのスピードアップ
- 国内/首都圏の自社工場による事業拡大に加え、他地域でのM&Aによるシェア拡大

施策
- 海外/インドでの新工場建設
- 海外/設備投資の積極推進
- 国内/千葉と栃木の新工場を中心とした首都圏での事業拡大
- 国内/M&Aの検討

東南アジア・インド・オセアニアでのパッケージング事業のさらなる拡大・強化

各地で増大するパッケージ需要に応えるべく、東南アジア・インド・オセアニア地域の9カ国で計47カ所の製造拠点を有し、事業を展開しています。

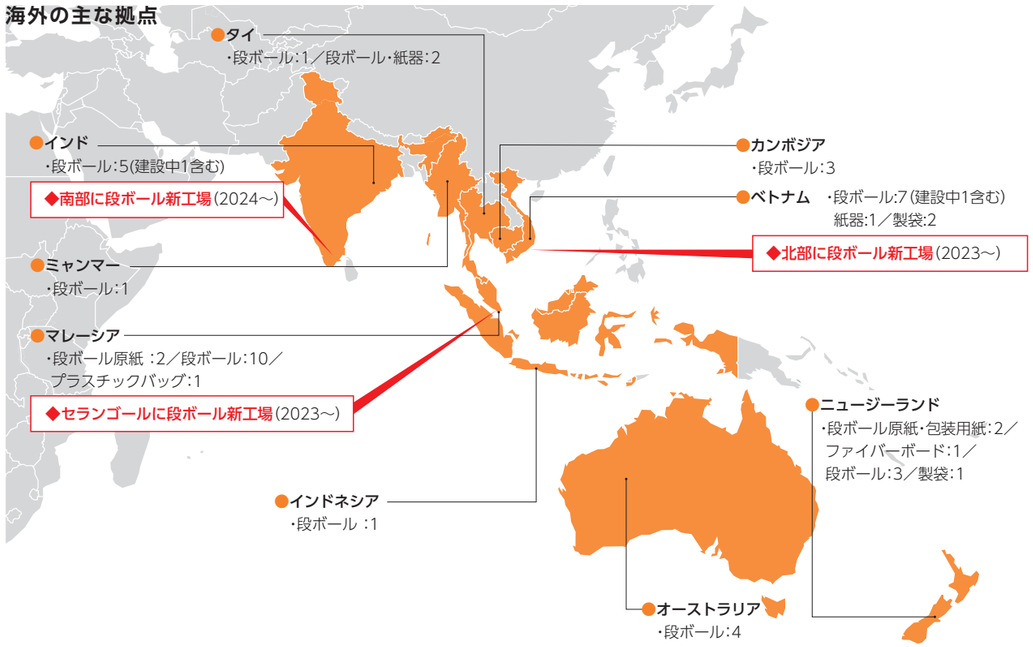
2022年から2023年にかけては、マレーシア(2カ所)・ベトナム(2カ所)における段ボール新工場の稼働に続き、2023年6月には、インドで5カ所目となる段ボール工場の建設を決定しました。

東南アジア・インドでは、今後も、引き続きM&Aも合わせて事業の拡大とシェアアップを図るとともに、新工場はもちろん、既存工場の設備更新の際にも、最新設備導入を積極的に進めることで、コストや品質面での競争力向上を図り、事業基盤を強化していきます。

オセアニアでは、2022年にニュージーランドのクライストチャーチで新工場が稼働し、豪州を含めた段ボール事業での積極的なM&Aや、既存工場への最新設備の導入などにより、事業拡大および競争力強化を図っています。

また、プラスチック代替製品開発を進め、今後想定される需要増に対応していきます。

ベトナム6カ所目の段ボール工場(2022年8月営業運転開始)



首都圏を中心とした国内段ボール事業の拡大・強化

栃木県宇都宮市に、首都圏の段ボール需要増加に対応すべく建設していた段ボール原紙加工一貫工場が、2023年2月に営業運転を開始しました。段ボールの原紙加工一貫工場は、当カンパニーの釧路工場に続き2工場目です。

一貫工場のため、コストや生産効率といった競争力に優れることはもちろん、原紙輸送時に発生する温室効果ガスの削減もでき、当グループが長期ビジョンに掲げる「事業活動を通じた持続可能な社会の構築」にも適合する、新時代の段ボール工場です。今後も競争力とサステナビリティの両方に貢献する投資を推進し、ステークホルダーの期待に応えていきます。

栃木県の段ボール一貫工場(2023年2月営業運転開始)

Voice マレーシア国内最大手製紙・段ボール一貫メーカーとして市場をリード

HPI Resources Berhad
Group Managing Director
Chang Kee Soon

2010年より、王子グループはGSPP、UKBそしてHartaの戦略的な買収を通じて、マレーシアの段ボール産業において、確固たるリーダーとしての地位を確立してきました。この12年間で行ってきた継続的な事業拡大とM&Aにより、マレーシアでは35%のシェアを獲得するに至っています。

私たちの革新と成長への取り組みは、最新鋭のGSPP第4工場(PP4)やUKB第2工場(UKB2)がマレーシア市場での王子グループの競争力を高めていることからもおわかりいただけると思います。

私たちは、マレーシア国内最大の製紙・段ボール一貫メーカーとして、責任ある企業市民であることを肝に銘じながら、競争力のある価格、卓越した品質、そして洗練されたサービスをお客様にお届けすることをお約束します。

需要の伸び悩みが続いていますが、私たちは人員配置や操業コストを最適化するための設備の近代化に邁進していきます。加えて、2021年には最先端技術を盛り込んだGSPPの段原紙抄紙機(PM3)の稼働を開始しました。私たちは川上、川下一体となってマレーシアのパッケージング事業を強化することで、マーケットをリードし、積極的かつ常に前を向いて株主の皆様に最大限の利益を還元するよう努めていきます。

環境問題への取り組み

栃木県に建設した段ボール原紙加工一貫工場では、出力1.5メガワットの太陽光発電設備の設置を進めています(2023年9月末完成予定)。これまでも段ボール工場に太陽光発電設備を設置することはありましたが、今回はより大出力のものを設置したことで、好天時には段ボール加工部門の日中電力使用量をカバーすることができます。

既存工場についても、屋根の荷重が許容する場合や屋根修繕時に合わせて太陽光発電設備の設置を行うなどの取り組みを進めている他、石炭使用ボイラについても燃料転換を検討しています。

引き続き事業の拡大と並行し、環境問題への取り組みも進めていきます。

栃木県の段ボール工場太陽光パネル(2023年9月末完成予定)

製品開発への取り組み

オール段ボールの海外向け自動車用座席輸送固定材の開発

従来スチール製のものが使われていた、海外向け自動車用座席輸送固定材について、オール段ボールの輸送固定材を開発しました。オール段ボール化することで、コストダウンや梱包作業の省力化、さらにリサイクル性の向上が期待されます。これらが評価され、世界包装機構(WPO:World Packaging Organization)主催の「ワールドスターコンテスト2023」において「ワールドスター賞」を受賞しました。

今後も当グループのサステナブル・ビジネスモデルの1つである「紙のリサイクル」を推進するため、紙製包装資材の新たな可能性を切り開く製品開発を続けていきます。

王子コンテナーが開発した段ボール製の海外向け自動車用座席輸送固定材

自動包装システム「OJI FLEX PACK'AGE」

商品サイズに合わせた梱包が可能な自動包装システムと、その包装資材である連続段ボールシート「らくだん」の販売を行っています。梱包作業の省人化に加え、資材使用量の削減や配送負荷低減による温室効果ガス削減も実現できる次世代の包装ソリューションとして、さまざまな業種のお客様から好評を得ています。

2022年6月からは、既存の関東地区に加え、関西でも「らくだん」の生産を開始し、本製品をさらに多くのお客様にご提案できる体制となりました。さらに市場展開を加速し、「らくだん」事業の基盤強化と環境負荷の低減に取り組んでいきます。

自動包装システム「OJI FLEX PACK'AGE」

生活産業資材事業｜生活消費財事業

王子グループ内のリソースを最大限に活用し、nepiaブランドの価値向上を図るとともに、人々と環境に寄り添った製品をお客様にお届けします。

王子ホールディングス
常務グループ経営委員
生活消費財カンパニープレジデント
森平　高行

事業概要

王子ネピアは、家庭紙ブランド「nepia」を展開し、人々のくらしと環境に寄り添うブランドを目指して事業活動を行っています。

肌ざわりや使い心地の良さ、機能性を追求する生活・感性品質。森を守るために採用したFSC®認証紙やWWFとの提携をはじめとする環境品質。王子ネピアはこの２つの品質を追求し、営業・マーケティング・生産が一体となった活動を進めています。(FSC®C018118)

ネピア プレミアムソフト
トイレットロール

ネピア プレミアムソフト
ティシュ

ネピアテンダー
はくだけフィットパンツ

©やなせ・F・T・N

ネピア やさしいGenki！

事業環境認識

- 少子化、超高齢化社会の到来
- 東南アジアなど新興国市場の経済発展
- コロナ禍を契機とした衛生意識の定着
- 環境問題への消費者意識の高まり
- 原燃料価格の高騰や為替レートの大きな変動
- 生活必需品の相次ぐ値上げによる消費行動の変容

事業機会とリスク

- 環境対応製品へのニーズ拡大
- 生産・物流体制の整備およびブランディング強化による国内首都圏を中心とした底堅い需要の取り込み
- 製品ラインナップの最適化による競争力の向上
- 原燃料価格高騰と製品価格への転嫁

強み

- FSC®認証紙やフィルムレスボックスティシュなど多彩な環境対応製品のラインナップ
- 原紙加工一貫生産による安定した供給・品質管理体制
- 首都圏に専用倉庫を完備し、きめ細かな供給体制を構築

中期経営計画達成のための課題と2023年注力施策

事業戦略

- 国内家庭紙事業のブランディング強化・拡販
- 紙おむつ事業の海外における拡大・強化

課題

- 国内の需要変動にマッチする製品開発と「nepia」ブランドのさらなる価値向上
- 海外紙おむつの市場環境変化への対応
- コスト競争力、販売力の強化

施策

- 人々の暮らしと環境に寄り添う「nepia」のブランディング強化
- 国内家庭紙：FSC®認証採用製品の拡大、「鼻セレブ」ブランド20周年企画、既存家庭紙製品リニューアル
- 海外紙おむつ：現地消費者ニーズを取り込んだ商品の開発、さらには大人用紙おむつの販路拡大と徹底したコストダウン

国内家庭紙事業のブランディング強化・拡販

王子ネピアは業界に先駆けて2011年からFSC®認証紙を採用し、その後、バイオマスフィルムやインキの採用、パッケージフィルムを紙に変更した環境配慮型製品の開発など、環境に配慮した製品作りを続けてきました。

2023年２月、生活者から見たSDGｓ企業ブランド調査※『JSBI 2022（Japan Sustainable Brands Index）』にて、王子ネピアは4位（306社中）、業種別ランキングでは、「化粧品・トイレタリー部門」1位（17社中）にランクインしました。

※ サステナブル・ブランド・ジャパン調べ（全国15,300サンプル、インターネット調査、18-79歳男女、対象企業数306社）

製品開発への取り組み

「ネピア鼻セレブ洗顔専用」発売

洗顔後に顔の水分をふき取る際、布タオルの衛生面に対する不安や、毛羽立ちやごわつきなど肌あたりに不満を抱えている声にこたえ、ぬれたお肌をやさしくふき取ることに適した「鼻セレブ洗顔専用」を新たに開発しました。鼻セレブボックスティシュと比較して、吸水速度は約3倍以上、ぬれた時のシートの強度は2倍以上で、エンボス加工が施されたシートが素早くお顔の水分をふき取ります。また、鼻セレブティシュと同じネピア独自のトリプル保湿成分を配合し、厚手でも柔らかな肌触りに仕上げました。今後も消費者の「あったらいいのに」を形にする製品開発に取り組んでいきます。

環境問題への取り組み

「ネピネピティシュ5コパック 400枚（200組）フィルムレスボックス」発売

ボックスの取り出し口部分のフィルムをなくし、押すだけで簡単にティシュが取り出せるフィルムレスボックスを開発しました。スムーズな取り出し性は維持したまま、フィルムをなくしたボックス構造を実現。使いはじめは取り出し口部分を押すだけで簡単に開きごみも出ず、使用後は箱を押して簡単にたためる仕様にし、そのまま紙ごみとしてリサイクルできます。また、取り出し口のフィルムをなくすことで、ティシュに使用されるプラスチックの約25％を削減し、省資源・省プラを実現した環境配慮型の商品です。

機能材事業

既存製品の付加価値向上と オンリーワン製品の開発および 営業強化で事業の拡大を目指します。

王子ホールディングス
常務グループ経営委員
機能材カンパニープレジデント
青木　茂樹

● 特殊紙事業

絶縁材などの電気材料用紙、嵩高性・保液性に優れた乾式パルプ不織布、寸法安定性や耐熱性に優れたガラスペーパーなど、高度な特殊機能を備えた製品を取り揃えています。

ガラスペーパー（王子エフテックス）

● 感熱事業

王子グループの感熱記録媒体は、家庭用・工業用・流通用・医療用などさまざまなシーンでさまざまなニーズに応える製品を多様な塗工技術で開発し、トップクラスの世界シェアを誇ります。

チケット用感熱紙（Kanzaki Specialty Papers ）

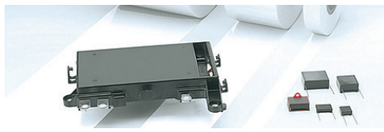
● 粘着事業

独自の粘着力制御技術で、食品・飲料ラベル、宅配便のラベル、梱包用粘着テープや絆創膏といった身近なものから、建材用アルミテープ、偽造防止用テープなど特殊用途に対応する製品を取り揃えています。

ラベル用生分解性タック紙（王子タック）

● フィルム事業

電動車のモーター制御用PCUに搭載されるフィルムコンデンサ用として、世界最薄となる薄膜化技術をベースに開発するコンデンサ用OPPフィルム、スマートフォン等の精密機器に採用される光学用両面粘着フィルムやハードコートフィルムなどの製品を取り揃えています。



コンデンサ用フィルム（王子エフテックス）

事業環境認識

- 脱炭素社会への転換のグローバルな進行
- 脱プラスチック化の潮流による、高機能性紙製品への期待の高まり
- 南米、東南アジアなど新興国市場の経済発展
- 原燃料価格の高騰や為替レートの大きな変動

事業機会とリスク

- 電動車の急速な普及によるコンデンサ用OPPフィルム需要拡大
- 脱プラ、減プラなど環境配慮型製品ニーズの高まりによる機能性紙素材の需要拡大
- 南米での旺盛な感熱紙や東南アジア地域における高機能ラベル需要の拡大
- 生産拠点が多岐にわたることによる為替変動リスク、海外事情リスクの顕在化

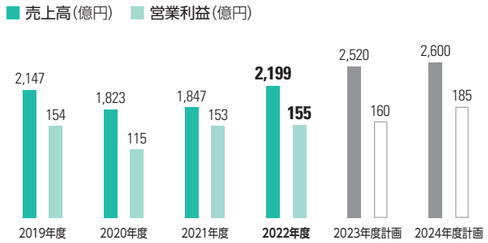
強み

- 「抄紙」や「紙加工（塗工・粘着）」、「フィルム製膜」といった基幹技術を高いレベルで保有
- 環境配慮型製品をはじめとした高機能・高付加価値品の迅速な開発体制
- 感熱事業の世界シェアNo.1
- 原紙から加工までの一貫生産体制

売上高構成比、売上高および営業利益の推移

2030年度　売上高目標　4,000億円

売上高構成比　10.9%
売上高　2,199億円
営業利益　155億円



セグメント概況

2022年度は、売上高2,199億円（対前年＋352億円）、営業利益155億円（対前年＋2億円）でした。国内事業では、特殊紙は販売数量が減少しましたが、価格修正を実施したことにより増収となりました。感熱紙は新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復傾向にあったことに加え、価格修正の実施により、増収となりました。海外事業では、感熱紙の需要回復や値上げの浸透、またブラジルにおいて新設備の稼働により増収となりました。

2023年度は、売上高2,520億円（対前年＋321億円）、営業利益160億円（対前年＋5億円）を計画しています。

中期経営計画達成のための課題と2023年注力施策

事業戦略

- 高機能・環境対応製品の積極的な開発
- 感熱事業の全世界拡販および印刷・加工を含めた競争力強化

課題

- 高機能・高付加価値かつ環境対応製品の開発スピードアップ
- 国内およびアジア地区におけるM＆Aによる事業拡大

施策

- 国内/コンデンサ用OPPフィルム設備、海外/感熱設備の投資効果の早期発現
- 国内/既存製品の付加価値向上とオンリーワン製品の開発および営業強化によるシェア拡大
- 海外/Adampakグループ取り込みによるシナジー効果の早期発現

高機能・環境対応製品の積極的な開発

国内では、高機能・高付加価値でかつ環境問題にも対応した製品の開発に取り組んできました。

フィルムでは、高い遮熱性と光線透過性を両立させ、かつエコマーク認定を取得した「遮熱ウィンドウフィルム」、紙では、ラベルの裏側や包装の中身が見える半透明感熱紙「セミスルー」、不織布では、植物由来のセルロースとポリ乳酸を主原料とし、生分解性を有した「キナリト」、天然素材100%の水解性「テクセルシリーズ」を開発しました。またプラスチック代替の木材パルプを原料としたプレス成型用「セルロースマット」、「ファインプレスW」、さらに射出成型用「セルロース樹脂ペレット」の開発にも取り組みました。

さらに、近年は農業資材分野でも加速度的に高まる環境対応要望に応えるべく、新たな製品を開発しました。産業廃棄物削減と食品ロス削減を実現する青果物包装フィルム「カルフレッシュ」、農業用マルチシートとして使用後は生分解する紙製マルチシート「OJIサステナマルチ」、天然パルプを主原料とした生分解性、水解性タイプの不織布「ハイビオス」など、ニーズに即応した新製品開発を進めています。

また、脱炭素社会のグローバル化による電動車の急速普及に対して、モーター駆動制御装置のコンデンサに用いられるOPPフィルム生産設備を王子エフテックス滋賀工場に２基増設し、１基は2023年7月より、１基は2024年度に稼働の予定です。これにより、生産能力は2022年２月時点に対し、倍増する予定です。

農業用マルチシート「OJIサステナマルチ」

機能材事業

● シルビオシリーズ

「シルビオシリーズ」は、プラスチック包装代替としての紙製品へのニーズが高まる中、紙包材にバリア性をもたせるだけでなく、アルミ蒸着フィルム並みの高いバリア性と遮光性をもつ製品や、透明性がありながらバリア性をもち合わせた製品、PEなどのシーラント加工が不要な製品など、さまざまな領域の軽包装用途に対応しています。

EVOH同等の酸素バリア性、LDPE同等の水蒸気バリア性を備え、内容物からの水分蒸発・においも防ぐ「シルビオ バリア」。紙にアルミ蒸着を行い、酸素バリア性・水蒸気バリア性・遮光性・ヒートシール性を付与し、高いバリア性や隠蔽性が必要とされる用途に最適な「シルビオ アルヴァ」。バリア性・ヒートシール性に加えて中身が見える機能を付与し、中身を見せたい食品や日用品の包装に最適な「シルビオ クリア」。バリア性はありませんが、シーラントが不要で容易なヒートシール機能に特化し、食品の二次包装や配送用包装、産業資材包装に最適な「シルビオ イージーシール」を取り揃えています。

シルビオシリーズは、紙マークの付与が可能な製品となっており、シルビオシリーズのもつ機能をご評価いただいたお客様から、食品の包装材や石鹸の包装材などに採用されています。

感熱事業の全世界拡販および印刷・加工を含めた競争力強化

海外では、南米での旺盛な感熱紙需要に対応するため、ブラジルで生産能力をほぼ倍増とする設備増強・増設工事が完了し、本格稼働しました。欧州においても、感熱紙の生産設備の増産工事が始まっており、2024年1月の稼働を予定しています。また、2022年9月には、東南アジアおよび中国に事業拠点を有する高機能ラベル印刷加工会社Adampakグループが王子グループの一員になりました。すでにタイで展開する感熱紙、粘着紙事業、マレーシアの高機能ラベル印刷加工、断裁加工事業に、電気製品やヘルスケア製品向けの高機能ラベル事業が加わるとともに、原紙から加工までの一貫生産が可能となりました。今後も成長が見込まれるアジア地区において、シナジー効果を早期に発現すべく、高機能ラベル分野の顧客ニーズを広く吸い上げ、川上事業へフィードバックすることで、タイムリーかつ最適なラベル製品を幅広く提案し、顧客価値を高めていきます。

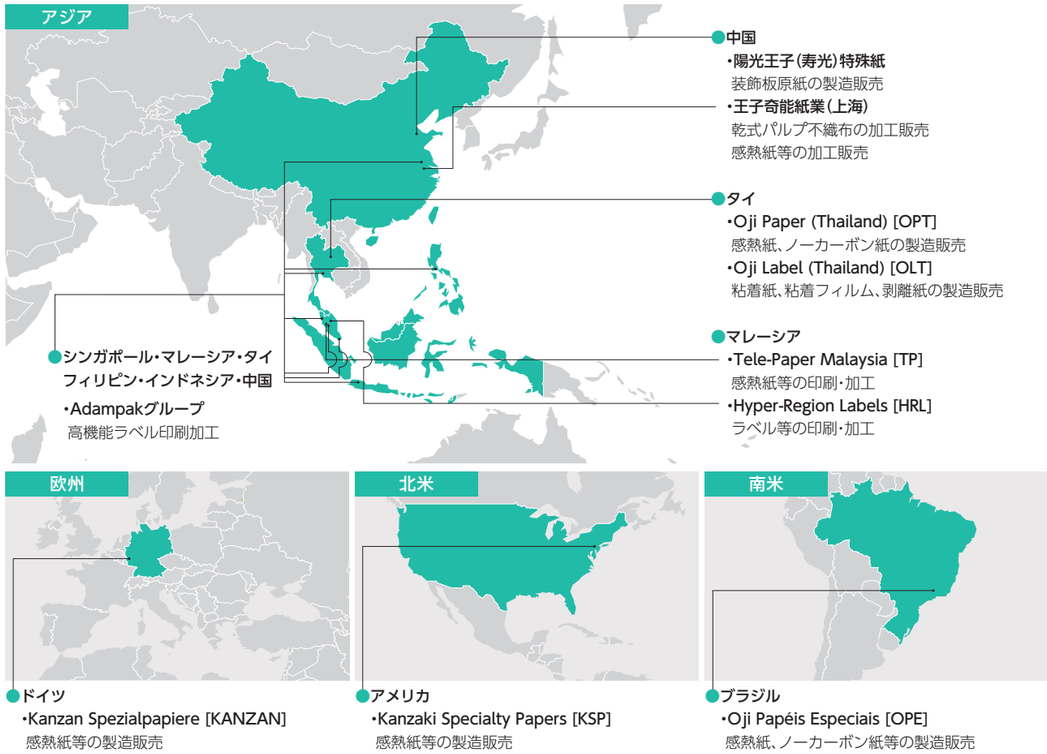
東南アジア・南米・中東・アフリカ等の新興国市場では、経済発展に伴い拡大する需要に応じて、これまで培ってきた「抄紙」や「紙加工(塗工・粘着)」、「フィルム製膜」といった王子グループの強みである基幹技術をベースに事業エリアの拡大を図ると同時に、既存拠点での競争力強化を目指していきます。

引き続き環境配慮型素材および製品の開発を進めつつ、常に市場ニーズを先取りし、期待を超える製品やサービスを迅速に提供できるよう、新たな事業領域の拡大に積極的に取り組んでいきます。

Adampakグループ(シンガポール本社事務所)

Adampakグループ(ペナン工場 レタープレスラベル印刷機)

海外の主な拠点



Voice グループ間シナジー創出で、さらなる“Stick with Us”へ

Adampak Pte. Ltd.
Director, Chief Executive Officer
TAN KOK KUANG

Adampakは、1979 年にシンガポールで設立されました。本社が所在するシンガポール以外にも、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国のアジア6カ国に7つの工場を有しています。

高度なラベルソリューションを必要とするグローバル企業をお客様とし、ストレージ、エレクトロニクス、バッテリー、自動車、ロジスティクス、ヘルスケアといった幅広い分野に、高付加価値でカスタマイズされた商品やサービスを提供することを目指しています。

デジタル印刷機、多色高速フレキソ印刷機、レタープレス印刷機、精密ダイカット装置および高速自動検査装置といった最新鋭の生産設備を用いて、ラベルのデザインから印刷加工まで一貫生産を行い、東南アジア・中国において高いプレゼンスを確保しています。

私たちは、品質、顧客サービス、競争力のある価格および納期対応に磨きをかけてブランド価値を高め、優良なお客様と長期的に親密な関係を築いてきました。当社のスローガン「Stick with Us(いつも一緒に)」は、その姿勢を表しています。

王子グループの一員として、グループ各社の高品質な製品や市場での高い認知度との相乗効果を発現させ、単なるラベル印刷会社ではないワンストップ・パッケージング・ソリューション・プロバイダーとなるべく、今まで以上にお客様に貢献していきます。

資源環境ビジネス

パルプ、再生可能エネルギー、
植林、木材加工など、
木材資源を総合的に活用し、
事業強化を推進します。

王子ホールディングス
常務グループ経営委員
資源環境ビジネスカンパニープレジデント
小貫　裕司

● **パルプ事業**

広葉樹および針葉樹クラフトパルプ・溶解パルプ等、多様なパルプを生産しています。外販パルプ生産能力250万トン/年を有し、アジア・欧州・北米などグローバルに販売を展開しています。

● **エネルギー事業**

木質バイオマス、水力、太陽光など、再生可能エネルギーによる発電設備の新設・増強により電力事業を推進しています。また、国内外の拠点を活かし、エネルギー事業の拡大に合わせたバイオマス燃料の調達や、外販強化も進めています。

● **木材加工事業**

アジア・オセアニア地域を中心に、製材や木材加工製品の生産能力増強および仕入販売強化に取り組んでいます。国内では、建設資材分野への拡販等を通じ、収益力の強化を図ります。

● **植林事業**

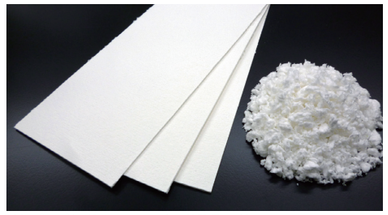
国内外に保有する社有林において、持続可能な森林の育成・管理に取り組んでいます。収穫した木材はパルプ原料の他、製材、合板部材、バイオマス燃料等、さまざまな用途に向けて供給しています。また、海外生産林400千haを目指し、用地取得と植林の拡大を進めています。

● **原燃料・資材調達業務**

王子グループ全体の調達を一括管理し、有利で安定した調達を進めています。調達にあたり「王子グループ・パートナーシップ調達方針」に基づき、環境や社会に配慮したCSR調達を行っています。

● **澱粉・糖化事業**

トウモロコシを中心とした澱粉・糖化製品の技術開発を進め、お客様のニーズに応えた製品を提供しています。



溶解パルプ（一般レーヨン用途と特殊品用途）

CENIBRA社 パルプ製品倉庫

ユーカリの品種を選び、育てる苗畑（ブラジル/CENIBRA社）

事業環境認識

- 新興国の経済発展や、脱プラスチックの潮流によるパルプ需要の増加
- 世界的なパルプ生産能力増強
- 木材資源の調達競争激化
- 原燃料価格、人件費などの上昇

事業機会とリスク

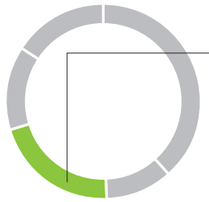
- 海外事業の拡充・強化
- M&A・戦略投資による拡大、競争力向上
- 植林地拡大による森林資源確保
- 社会・経済情勢、為替、自然災害などによる市場変動リスク

強み

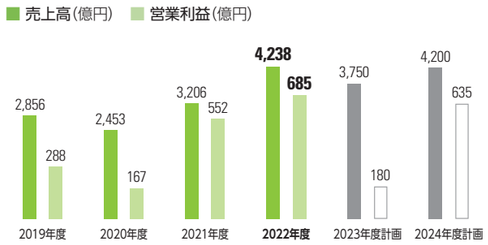
- 豊富で持続可能な森林資源と森林管理ノウハウ
- 森林から木材加工・パルプまでの一貫生産体制
- 多様なパルプの生産・販売体制
- グループの総合力、国内外の拠点を活かした調達力と販売力

売上高構成比、売上高および営業利益の推移

2030年度　売上高目標　6,000億円



売上高構成比　20.9%
売上高　4,238億円
営業利益　685億円



セグメント概況

2022年度は、売上高4,238億円（対前年＋1,032億円）、営業利益685億円（対前年＋133億円）でした。国内事業では、パルプ事業が、原燃料価格高騰の影響を受けつつも、堅調な需要と市況の上昇により、増収・増益となりました。エネルギー事業は、2022年12月から徳島県で新たにバイオマス発電所が稼働したことにより、売電量が増加し、増収となりました。2023年度は、世界的なパルプ市況の下落により減収減益が見込まれ、売上高3,750億円（対前年△488億円）、営業利益180億円（対前年△505億円）を計画しています。

中期経営計画達成のための課題と2023年注力施策

事業戦略

- 「総合パルプメーカー」としてパルプ事業を拡大・強化
- 再生可能エネルギーなどのエネルギー事業の推進
- 木材加工事業の拡大

課題

パルプ事業
- 市場の成長に向けた生産・販売量の拡大
- コスト競争力、販売力の強化

エネルギー事業
- 再生可能エネルギー事業の拡大
- バイオマス燃料の調達強化

木材加工事業
- 木材製品の販売力強化
- 製材事業拡大

施策

- パルプ設備の近代化、安定操業とコスト競争力の強化、増産対応の検討を進めます。
- 森林資源を活かした発電事業、木材加工事業の拡大を進めます。
- 森林資源確保のため、用地取得と植林の拡大を進めます。

パルプ事業の強化・拡大

パルプ市況の変動に対応する事業基盤を強化するため、主要拠点において戦略的収益対策を継続して実施しています。

CENIBRA（ブラジル）

- 2021年5月に当社グループがCENIBRA社の全議決権を取得したことに伴い、さらにコスト競争力・販売力強化を図るとともに増産も検討
- 製造設備の最新鋭化・省力化

Pan Pac（ニュージーランド）

- 紙器向け需要の成長に応じた増産を検討

Oji Fibre Solutions（ニュージーランド）

- 2022年3月完全子会社化
- 王子グループの操業技術や管理手法を導入し、操業安定化・歩留り向上・省エネ対策を実施

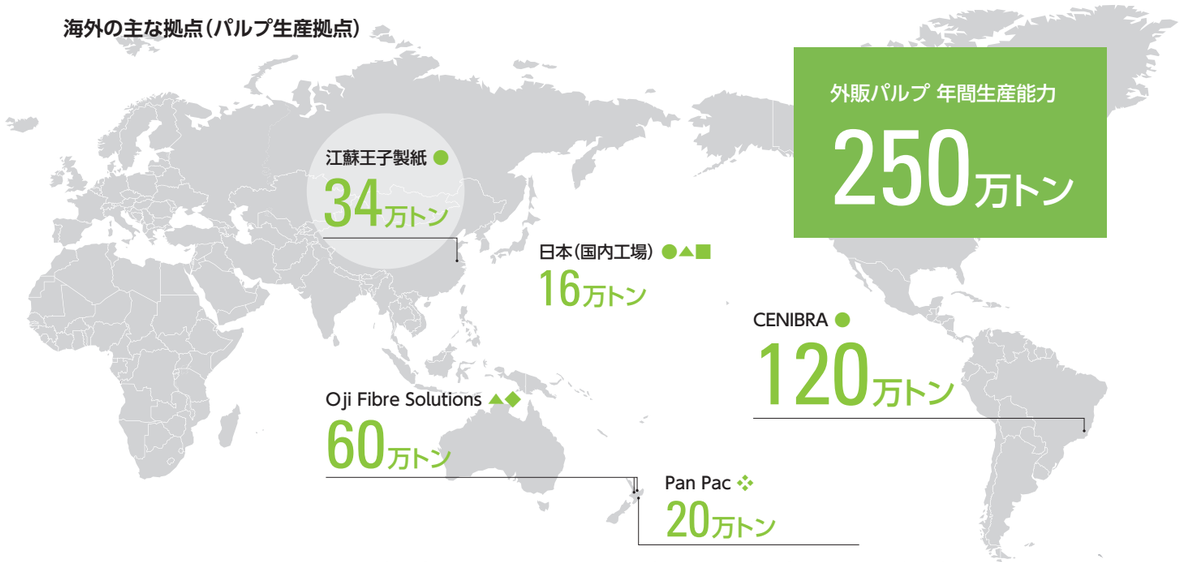
溶解パルプ

- 衣料品需要増加を踏まえ、成長性のある溶解パルプの増産・拡販を進めるとともに、高付加価値品の拡販も推進

パルプの船積みの様子（ブラジル）

資源環境ビジネス

海外の主な拠点（パルプ生産拠点）



生産パルプ種類　●広葉樹クラフトパルプ　▲針葉樹クラフトパルプ　■溶解パルプ　◆建材用パルプ　❖BC-TMP

CENIBRA社工場全景
（ブラジル ミナスジェライス州 ベロ・オリエンテ市）

Oji Fibre Solutions社タスマン工場
（ニュージーランド北島）

環境問題への取り組み

EcoVadis社のサステナビリティ調査で「ゴールド」評価を獲得

CENIBRAは、サプライチェーンに関する国際的な評価機関であるフランスのEcoVadis社のサステナビリティ調査において、「ゴールド」評価を獲得しました。同調査では、環境、労働と人権、倫理、持続可能な調達の4テーマが評価されます。「ゴールド」は、全世界の10万を超える対象企業のうち、上位5%以内の企業が認定されるもので、環境・社会分野での要求がますます厳しくなる中、同社の卓越した地位を確固たるものとしました。

CENIBRAのサステナビリティ・アドバイザーであるSandro Morais Santosは、「EcoVadis評価における顕著な実績は、CENIBRAが最高のESG実践に取り組み、それを遵守していることの証左である」と述べています。

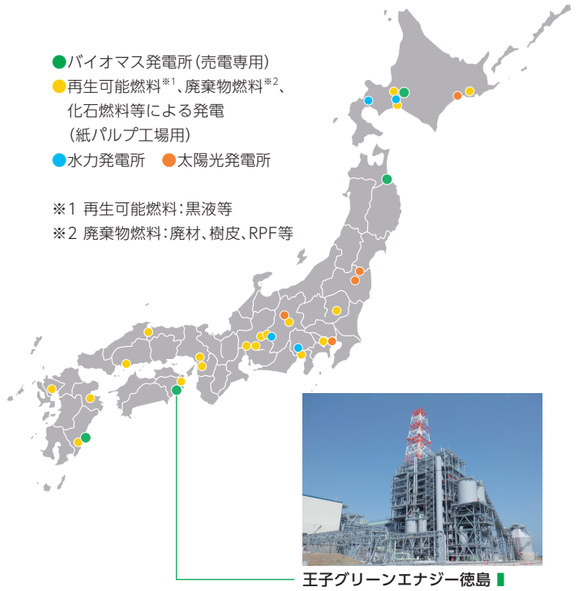
また、ガバナンス・コンプライアンス担当コーディネーターであるSandra Maria Henriqueは、「この結果は、サステナビリティの概念と実践が、CENIBRAの成長と進化を通じて成熟してきたことを証明している」と述べています。

GOLD 2022 ecovadis Sustainability Rating

再生可能エネルギーなどのエネルギー事業の拡大

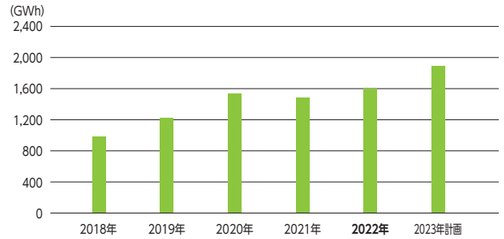
● 燃料調達の優位性を活かした事業拡大

エネルギー事業では、再生可能エネルギーの事業強化を目指し、さまざまな事業の検討を継続的に進めています。2022年12月には、伊藤忠エネクス株式会社と合弁で建設したバイオマス発電設備が徳島県で稼働しました。また、国内社有林地を活用した風力発電事業の検討も進めています。バイオマス燃料の調達については、国内では未利用木材資源を活用した燃料用チップの増産や、従来は放棄されていた枝条材（小枝や葉）の積極利用を図っています。海外では適法性と持続性を確保しつつ、インドネシアやマレーシアにおける燃料用パーム椰子殻の調達増を図っています。



王子グリーンエナジー徳島
富岡エコエネルギー発電所
2022年12月稼働

売電量の推移



木材加工事業の拡大

● 国内社有林の活用と拡大

王子グループは、日本国内に民間では最大規模となる188千haの社有林を保有・管理しています。社有林は当初、製紙原料の生産を主目的としていましたが、現在は、森林経営による環境貢献などを含め、森林のもつ多面的な価値を高めています。

- 林道整備等による既存社有林の有効活用および新規山林取得を推進
- 製材事業の強化を図り、社有林原木から製品までの一貫化による付加価値アップを推進

浦幌山林のカラマツ林（北海道）

王子与志本製材の製材工場（北海道）

- 林地残材（伐採時に発生する枝葉や梢端部などの木材）の集荷によるバイオマス燃料への活用
- ドローンを活用した苗木運搬などにより植林作業の効率化を推進

Voice　CENIBRA創立50周年を迎えて

CENIBRA取締役
Júlio Ribeiro

2023年9月、CENIBRAが創立50周年を迎えるとともに、私は勤続30年となります。技術研修生として迎えられた私にとって、CENIBRAは第2のホームであり、ここで確固たるキャリアを築くことができたことをとても誇りに思っています。

CENIBRAは2008年以降、主に欧州、アジア、米国のお客様に向け高品質の漂白ユーカリパルプを年間120万トン生産しています。創立当初、年産26万トンでスタートしたこのプロジェクトは、数々の改革を重ねた結果、当初の5倍の生産量となるまでに成長し、これまでの歴史の中で記録される累計生産量は2023年末には3,500万トンに迫ります。

私たちCENIBRAは、【森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造する】という王子のパーパスを体現し、世界と王子グループのサステナビリティに貢献するため、さらなるチャレンジに邁進していく決意を新たに50歳を迎えます。

印刷情報メディア事業

事業間の垣根を越えた連携で、需要構造の動向を見据えた生産体制再構築等を進め、収益力・競争力を高めていきます。

王子ホールディングス
常務グループ経営委員
印刷情報メディアカンパニープレジデント
森平　高行

● 新聞用紙事業

世界有数の新聞用紙生産工場である苫小牧工場で、多彩なパルプを駆使して、軽量化や印刷再現性の向上などお客様が求める高品質な新聞用紙を生産しています。国内シェアは約30%を占め、首都圏をはじめ全国各地に安定供給しています。新聞用紙には、多くの古紙を使用し、紙のリサイクルにも貢献しています。

● 印刷・出版用紙事業

写真集や高級カタログに使用されるアート紙、雑誌やチラシに使用されるコート紙、書籍に使用される上質紙など、さまざまなニーズに対応する印刷用紙を取り揃え、日々の情報を伝達する役割を担っています。FSC認証紙やグリーン購入法適合製品など、環境配慮型の印刷用紙のラインナップも充実しています。

● 情報用紙事業

コピー用紙、フォーム用紙など、さまざまな情報処理システムを支える出力媒体を提供しています。きめ細かな品質設計と品質管理体制で、印刷方式や型式の異なるプリンターにも対応しています。印刷適性や加工の作業性をはじめ、生産性向上により高速化する印刷にも対応できる高品質な製品を取り揃えています。

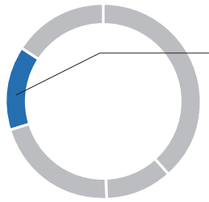
事業環境認識
- アフターコロナによる経済活動の活発化
- 環境問題への消費者意識の高まり
- 一層のICT化やテレワークの定着などによるペーパーレスの進行
- 原燃料価格の高騰や為替レートの大きな変動

事業機会とリスク
- 情報媒体としての「紙」の優位性（視認性・可読性、信頼性、保存性、紙ならではの質感、写真の再現性など）
- グループの事業間の垣根を越えた連携による競争力強化
- 環境意識の高まりによる環境配慮型紙製品の需要増
- 継続的なグラフィック用紙の需要減
- 原燃料価格高騰と製品価格への転嫁

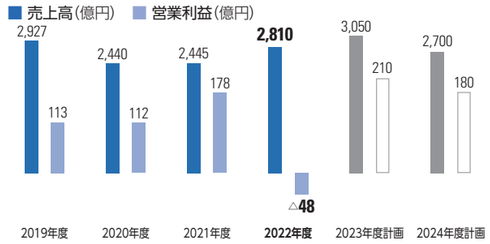
強み
- パルプ生産設備・バイオマス発電設備等の大型既存インフラを保有
- FSC認証紙、エコマーク認定製品、グリーン購入法適合製品など環境配慮型製品の充実
- 市場ニーズに合致した製品開発力

売上高構成比、売上高および営業利益の推移

2030年度　売上高見通し　1,500億円



売上高構成比　13.9%
売上高　2,810億円
営業利益　△48億円



セグメント概況

2022年度は、売上高2,810億円（対前年＋365億円）、営業利益△48億円（対前年△226億円）でした。国内事業では、新聞用紙は需要の減少傾向が継続しているものの、価格修正の実施により、売上高は前年並みとなりました。印刷用紙は輸入紙の減少により国内製品への需要が高まっていることに加え、価格修正の実施により、売上高は前年に対し増収となりました。海外事業では、江蘇王子製紙有限公司において、売上高は前年に対し増収となりました。

2023年度は、売上高3,050億円（対前年＋240億円）、営業利益210億円（対前年＋258億円）を計画しています。

中期経営計画達成のための課題と2023年注力施策

事業戦略
- 保有資産の最大活用による、他事業との連携を通じた生産体制再構築・競争力強化

課題
- 保有資産の有効活用
- キャッシュフロー経営の徹底

施策
- 原燃料価格高騰の継続に対応し、2022年度に修正した製品販売価格の維持継続
- コスト削減の徹底継続
- 他事業との連携強化

王子グループの他事業と連携を深め、今後の需要動向を見据えて、保有するパルプ設備・バイオマスボイラ等の資産を最大限有効活用し、収益力・競争力強化に取り組んでいます。

2021年10月には、苫小牧工場で新聞用紙マシン1台を段ボール原紙製造へ生産品種を転換しました。また、2022年4月には、同工場において王子マテリア名寄工場から移設した特殊ライナー・特殊板紙製造設備が稼働しました。海外では、江蘇王子製紙(中国)において、既存のパルプ製造設備やバイオマスボイラ等を活用し、家庭紙原紙マシンを新設しました。(2020年稼働)

苫小牧工場L-1号マシン（N-5号マシンを改造）

環境問題への取り組み

紙づくりに欠かすことのできない「電力」。王子グループは、各種発電所を国内に保有し、工場の動力源の確保や売電事業に取り組んでいます。

中でも千歳第一水力発電所は、明治43年に建設され、日本最古の産業用発電所として、今もなお稼働しています。千歳川流域の5つの水力発電所の発電能力は3万7,000kwに上り、約25km離れた王子製紙苫小牧工場の重要な動力源となっています。また、支笏湖周辺の需要家にも供給しており、2018年9月に北海道で発生した胆振東部地震の際には、地震発生後約1時間半後には発電所が復旧し、道内で唯一ブラックアウトを免れました。水力発電は、エネルギー変換効率が高く、発電時に温室効果ガスを排出しない再生可能なクリーンエネルギーとして、昨今注目されています。今後も持続可能な社会の実現に向けて、エネルギーの有効活用など、さまざまなアプローチで貢献していきます。

千歳第一水力発電所

コーポレートマネジメントグループ／シェアードサービス会社

当社提案による環境に配慮した紙製食品容器

旭洋

常にユーザーインの思考で顧客の課題解決に取り組む「提案開発型商社」です。紙とパッケージを主要フィールドに、合成樹脂の原料および製品、包装資材、薬品、機械器具など、川上（原料・素材）から川下（最終製品）まで、王子グループ内外の多様な製品を取り扱っています。社会環境の変化により多様化するニーズに対して、提案力、開発力、総合力を発揮し、紙とパッケージを進化させながら、より豊かな社会を創出していきます。

ISCC認証によるバイオマスプラスチックを使用した環境配慮型容器

ギンポーパック

食品向けプラスチックシート成形容器の企画、製造、販売を一貫で行うメーカーです。数々の特許と先端技術を駆使したユニークな包材を通し、高品質なパッケージを提供しています。単一素材で高発泡倍率を実現した新素材「パルファイン」は、かつてない耐熱性と強度を有し、電子レンジを使った「できたて熱々の家庭料理」の再現を可能にしました。また植物由来のバイオマスプラスチックを使用した環境配慮型容器の開発にも注力しています。

工業用水製造システム

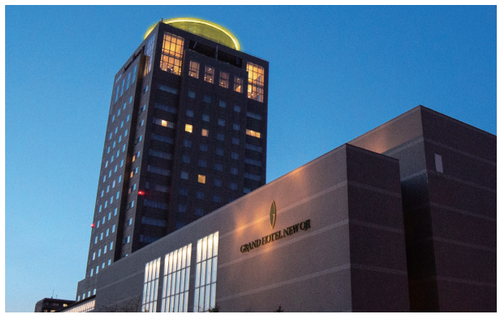
王子エンジニアリング

製紙工場で培った技術をもとに、設備提案から運転方案のご提案までワンストップ対応の事業展開をしています。厳格な安全・工事品質管理のもと、IoTを駆使した工事管理、3Dスキャナーと3DCADによる精緻な設計等により、お客様のニーズに的確にお応えします。また、排水処理や再生可能エネルギー等の環境ビジネス、サーモカメラ搭載ドローンによる遠隔保全業務等、新たなニーズの発掘とそのソリューションを提供しています。

貨物を積載した車両ごと運べるRORO船

王子物流

シェアードサービス会社として、王子グループの製品等の国内および国際物流業務を主体に取り組んでいます。2022年から本格的に浦安支店を拠点に３ＰＬ事業に参画。首都圏を中心に需要の拡大が続く消費財やEC向けの拠点とし、365日24時間体制の倉庫に生まれ変わりました。また「物流2024年問題」など物流業を取り巻く経営環境の変化にも積極的に対応し、グループ内外の顧客の信頼を得るべく努めていきます。



グランドホテルニュー王子外観

ホテルニュー王子

ホテル事業と機内食事業を展開しています。北海道苫小牧市の中心に位置する16階建てシティホテル「グランドホテルニュー王子」は、宴会場やバンケットホール、和・洋・中3つのレストラン、バー、売店等を備えた苫小牧のランドマークです。このホテル事業に加え、新千歳空港ケータリングビル内で国内外の航空会社向けに、高品質でバラエティ豊かな機内食を製造し、専用の大型車両で機内に搭載する業務も行っています。

王子ホームズ青山外観（東京都港区南青山）

王子不動産

王子グループ所有地の管理、有効活用をはじめ、品質にこだわったマンションや戸建住宅・造成宅地の開発、分譲事業の他、オフィスビルやマンション・商業施設等の賃貸、管理、リノベーション事業などを営む総合デベロッパーとして、全国で活動しています。また、技術力に定評のある建設設計部門（一級建築士事務所）を備え、工場プラントから公共施設、民間施設に至るまで幅広い分野の設計監理およびコンサルタント業務を行っています。

王子総合病院外観

王子総合病院

440床（うちICU８床）、25科を有し、東胆振・日高医療圏の基幹病院として、高機能で良質な医療を提供しています。災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターに指定され、臨床研修指定病院として研修医の指導・育成にも当たっています。その他、介護老人保健施設「ケアライフ王子」、居宅介護支援事業所王子、苫小牧市から委託を受けた中央地域包括支援センターも有し、安全で安心な医療提供に努めています。

王子グループの原紙による飲料用パック

石塚王子ペーパーパッケージング

王子グループが保有する紙の製造、加工ノウハウと、石塚硝子株式会社が保有する多種多様な内容物に応じた紙容器の加工や充填ノウハウを融合し、飲料用紙容器事業を展開しています。原紙の抄造から、ラミネート加工、飲料パッケージ加工までの国内一貫生産体制を整えるとともに、国内外の優れた充填機の販売、サービスメンテナンスの提供を通じて、全国の乳業・飲料メーカーの皆様に、高品質かつ安全・安心な製品を安定供給していきます。